

## 2014年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

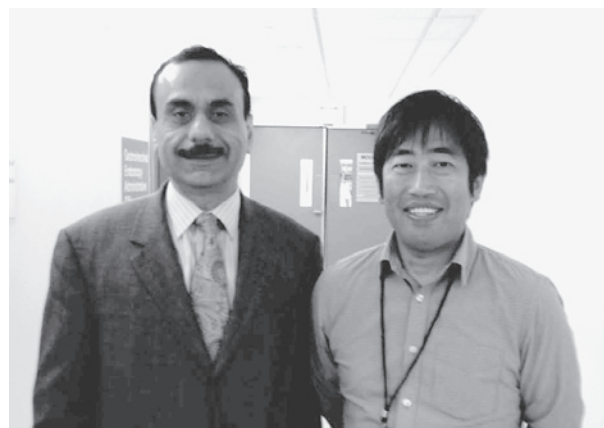
### 2014 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

塩田 真己 (九州大)

2014年のJUA/AUA Academic Exchange Programに参加させて頂きました。このProgramは、これまで、2週間ずつ2カ所の訪問をしていたようですが、今回は1カ所のみ訪問とはなりますが、4週間みっちり研修を行うことができました。Orlandoで行われたAUA meeting終了後より、私の研修先であるProf. TewariのいるMount Sinai病院へと移動しました。

Mount Sinai病院は、ニューヨークのマンハッタン島にあり、私は、その病院のすぐ近くのアパートの一室に宿泊することになりました。ニューヨークは初めてでしたが、想像以上に、エネルギッシュな街で、けたたましく車が走り、あらゆる人種の人々が行き交う街の様子に驚きました。はじめは、なんてとこに来てしまったものかと後悔しましたが、しばらくすると、自然とその中に溶け込んで行き、人間の順応力のすごさと、全てをのみ込んでしまうアメリカのすごさを実感しました。

さて、私の研修の話ですが、Prof. Tewariはみなさんご存じの方も多いと思いますが、ロボット手術の第一人者の一人で、これまで、何千例ものロボット支援下前立腺全摘除術(robot-assisted laparoscopic prostatectomy, RALP)を行ってこられたその道のエキスパートです。私は、アメリカで第一人者とされる彼の手術をぜひ一度この目で見てみたいと思い、今回、この研修先を選びました。見学を始めて、まず最初に驚いたことは、Prof. Tewariは、RALPしかないということでした。アメリカならではの完全分業制を知ってはいましたが、これほどまでに徹底されているのには、本当に衝撃を受けました(これは特殊な例かもしれませんが)。研修中の4週間で、毎日2、3例のRALPを見ましたが、実際、彼のRALPは、当然といえば当然ですが、何のよどみもなく、流れるように手術が進行し、いつも何一つ問題も起きず終了します。また、彼は、神経温存のエキスパートでもあります。その解剖学的知識もさることながら、症例の特性に応じた神経温存や術式のこと細やかな手技の変更は、本当に驚愕のレベルでした。その上、未公開の彼独自の手術テクニックを見れたり、本当に満足度の高い手術見学でした。他にも感心したのは、彼はいつも同じ助手、直介看護師、外回り看護師と、いつも同じチームメンバーで、同じ流れで手術をマネジメントしていま



Prof. Tewariと共に



AUAでのAMS社のレセプションにて  
右から同じくProgramに参加した名古屋市立大学水野  
健太郎先生、AUA事務局の方、筆者

した。彼のもとにはアメリカ国内のみならず、世界中から患者さんが彼の手術を受けに来ていて、世界一を目指すには、このくらいのシステムでないと、世界一にはなりようがないとも思いました。日本では、(少なくとも大学病院では、)このようにひとつの手術しかない泌尿器科医は聞いたことがありません。これが良いことか悪いことかは分かりませんが、見習うべきことのひとつのように思いました。

手術見学以外では、セミナーなどに参加させてもらっ

たり、ラボの見学をさせてもらったりして過ごしました。彼のラボでは、前立腺癌組織のサンプルからの遺伝子解析などを他のグループ（彼が以前所属していた Cornell 大学のグループ）と共同して研究しているようでしたし、Memorial Sloan Kettering Cancer Center のグループとも交流があるようでした。その辺りは、狭いニューヨークに多くの研究機関や医療機関が集まっていることの利点かと思いました。他にも、MRI ガイド下前立腺生検の有用性や Multiphoton microscopy といった最新のテクノロジーによる術中の神経可視化に関する研究など、とても興味深い話を聞くことが出来ました。また、Mount Sinai 大学に留学している知人に再会し、当地でがんばっている日本人研究者の方々と食事に行ったりして、いろんな話を聞き、自分のバンクーバーでの留学時代の苦楽

を思い出したりしました。

週末は、完全にオフでしたので、せっかくのニューヨークを楽しみました。ヤンキーススタジアムでは、マー君こと田中将大投手の活躍を見ることができましたし、ブロードウェイでの本場のミュージカルも楽しむことが出来ました。また、自分の滞在したアップタウンには、多くの美術館があり、特にメトロポリタン美術館には、その規模の大きさと収蔵品のレベルの高さに驚きました。そして、個人的には、ニューヨーク名物の屋台の食事が気に入り、滞在中には、よくお世話になりました。

このプログラムのおかげで、1カ月の間、アメリカのニューヨークで、貴重な体験をすることが出来ました。このような機会を与えて頂きました JUA, AUA とスポンサーの AMS 社の関係各位の皆様に感謝申し上げます。